

## 仙台市総合計画審議会 第2回地域とくらし部会議事録

日 時	令和元年12月4日(水) 18:00~20:10
会 場	仙台市役所2階 第三委員会室
出席委員	阿部一彦委員、阿部重樹委員、岩間友希委員、遠藤智栄委員、奥村誠委員、佐藤和子委員、佐藤静委員、傳野貞雄委員、永井幸夫委員、中坪千代委員 [10名]
欠席委員	折腹実己子委員、加藤和彦委員、小岩孝子委員、今野彩子委員、佐々木綾子委員 [5名]
仙 台 市 (事務局)	福田まちづくり政策局長、梅内まちづくり政策局次長、郷湖政策企画部長、松田政策企画課長、柳沢政策企画課主幹、千代谷政策企画課主幹
議 事	1 開会 2 議事 (1) 市民参画事業について (2) 基本計画の検討について (3) その他 3 閉会
配付資料	1-1 全市民アンケート報告書 1-2 市民まちづくりフォーラム ～みんなのせんだい未来づくり2019～報告書 1-3 東北における仙台のあり方と地域づくりシンポジウム報告書 1-4 区民参画イベントの実施概要 2-1 仙台市基本計画検討資料 概要 2-2 仙台市基本計画検討資料(修正版) 参考資料 仙台市総合計画と都市計画マスタープランへの提言書 チャレンジシティ仙台 委員提出資料 世界に誇れる新しい杜の都 “The Greenest City” Sendaiをつくる

### 1 開会

#### ○郷湖政策企画部長

大変お待たせいたしました。定刻となりましたので、これより「地域とくらし部会」を始めさせていただきますと思います。

それでは、部会長よろしく願いいたします。

#### ○阿部一彦部会長

それではただいまから「仙台市総合計画審議会 第2回地域とくらし部会」を開会いたします。

議事に入る前に、定足数等の確認です。事務局から報告をお願いします。

○郷湖政策企画部長

本日は、10名の委員の皆さまにご出席をいただいております。定足数を満たしていることをご報告します。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。承知いたしました。

本日は前回から新たに委員となられました、仙台市議会健康福祉委員会委員長の佐藤和子委員がご出席されておりますので、一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

○佐藤和子委員

健康福祉委員会の委員長をさせていただいております佐藤和子と申します。今回初めて総合計画審議会の委員を務めさせていただくこととなりました。第2回目の部会から参加ということで、前は欠席して大変失礼いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。佐藤和子委員、よろしくお願いいたします。

次は会議の公開・非公開の取り扱いですけれども、前回と同様、公開としたいと思いますが、委員の皆さまよろしいでしょうか。

(了承)

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。それでは、公開といたします。

続きまして、本日の議事録署名委員の指名でございますけれども、前は加藤委員にお願いしました。次の小岩委員、続く今野委員、佐々木委員は本日ご欠席ですので、今回は佐藤和子委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

(了承)

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

事務局から資料等の確認をお願いします。

○郷湖政策企画部長

お手元に、座席表、次第、資料一覧、資料1-1～1-4、資料2-1と資料2-2。そして昨日開催されました「まちと活力部会」の方で、竹川委員からご提出いただきました

た資料、こちらも含めて置かせていただいております。

それから、参考資料といたしまして、仙台商工会議所にて取りまとめました「仙台市総合計画と都市計画マスタープランへの提言書」という冊子を、机の上に置かせていただいております。10月30日に、仙台商工会議所の仙台活性化まちづくり2030検討委員会から、本市あてに提言を受けたものでございます。

また、机の下には、前回までの主要な資料を綴じた青いファイル、こちらを置かせていただいておりますので、よろしくご活用いただければと思います。

資料の不足などはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

#### ○阿部一彦部会長

ありがとうございます。それでは、提言書等に関しまして、事務局から説明があるそうです。お願いします。

#### ○松田政策企画課長

資料の一番下でございます、参考資料「チャレンジシティ仙台」と題した提言書をご覧くださいと思います。こちらですが、昨日の「まちと活力部会」では、仙台商工会議所の今野薫委員から直接ご説明いただいたところではございますが、本日は私から概略をご説明申し上げたいと思います。

表紙をお開きいただきますと、商工会議所会頭の挨拶がございますが、この中に提言書の趣旨がございまして、復興の次のステップに向けて作成している総合計画と、もう1つの都市計画マスタープランに対しまして、商工業者のお立場で仙台の将来像をご提言いただいたというものでございます。

提言でございますが、仙台市の都心のまちづくりをメインテーマにしております、「チャレンジシティ仙台」と銘打った5つの指針とアクションプランで構成されているものでございます。

具体的には15ページをお開きいただきたいと思います。15ページには都心のまちづくりに向けて、その姿勢が書かれておりますけれども、「守りではなく、攻めの姿勢で失敗を恐れずにチャレンジし、飛躍する事例を積み重ねていく」。このような意味をこの「チャレンジシティ仙台」に込めたというふうに記載されております。

また、右側に5つの指針が輪によって示されておまして、「都心の魅力を磨く回遊都市」を中心に据えまして、ここでは民間開発の誘導による都市機能の高度化、そしてエリアごとの魅力を高めることで、杜の都を体感しながら、まちを循環する賑わいをつくり出していくという指針が真ん中の回遊都市でございます。

その下が「研究開発都市」としまして、大学や次世代放射光施設を生かして、産業構造の高度化を図るという指針でございます。

右側に「個性で稼ぐ商都」としまして、ここでは卸・小売業につきまして、仙台の個性やエリアと一体で新たな価値を生み出すという内容が盛り込まれております。

左側の「東北の拠点となる国際交流都市」としましては、インバウンドの受け入れに磨きをかけ、そしてアウトバウンドも増やし、情報発信を高めて仙台・東北のリピーターを

増やすというのが、ここの指針に込められています。

そして一番上が「若者を惹きつける文化創造都市」としまして、文化やエンターテインメントの水準を上げ、若者を惹きつけるという内容がここに込められております。

その後ろには、それぞれの指針の具体的なアクションプランがまとめられておりますが、そちらは後ほどご覧いただきたいと思っております。

#### ○阿部一彦部会長

ありがとうございました。先ほどの「チャレンジ」という言葉をはじめとして、私たちの審議会と方向性が同じもの、また、重なるものも多いかもかもしれません。今後の審議の参考にしていただければと思います。

## 2 議事

### (1) 市民参画事業について

#### ○阿部一彦部会長

それでは、議事に入ります。お手元の次第にのっとり進めさせていただきます。

議事の第1「市民参画事業について」です。事務局から説明をお願いします。

#### ○松田政策企画課長

資料1-1から資料1-4まで、まとめてご説明申し上げます。

前回の第1回部会では、7月以降、これまで行ってきた市民参画事業について概要をご説明申し上げたところでございます。7月に行った「せんだい中高生会議」につきましては前回お示ししたところですが、他3つの事業についても報告書がまとまりましたので、ご報告させていただきたいと思っております。

まず、資料1-1「全市民アンケート」についてご説明します。1ページをお開きください。3の調査方法にありますように、市政日より9月号にはがきをとじ込み、返信いただく形で実施したものでございます。4の調査項目ですが、全部で3項目ございました。1つは問1として「未来に向けて力を入れるべき取り組み」に関して。ここは自由記載となっております。

また、審議経過でまとめました7つの視点を出し、問2として仙台が目指す状況について、現在の達成度、そして今後の重要度を評価いただくというところでございました。有効回答はインターネットでの受け付けも合わせ、全部で7,354通あったところでございます。

調査結果についての概要でございます。3~4ページをお開きください。こちらは、未来へ向けて力を入れていくべき取り組みの自由記載について項目を統計的にまとめた部分でございます。7つの視点のうち、3ページ下のオレンジの「③仙台で暮らす」と、4ページの「④仙台で育つ」に関連する記述がともに2,000件を超えて多い状況でございます。

もう少し細かく、小分類ごとに見てみますと、4ページ上の「子ども・子育て支援」592件が最も多い状況でした。次いで3ページ下の「公共交通」の505件、そしてまた右ペー

ジに行きますが、教育の中の「教育・学力」の486件、また、そのほかの多い記載として「杜の都・緑・景観」、そして「いじめ・不登校対策」に関連する記述が多くみられたところがございます。なお、具体的な自由記載につきましては、抜粋形式ではありますが、11ページから小分類ごとにまとめて掲載しております。現在行っている仙台の事業に対しましても、賛同するご意見もあれば、「もっとこのようにすべき」というようなアドバイスをいただくようなご意見もありました。1つの項目でも非常にさまざまな角度からのご意見をここに並べております。後ほどご高覧いただきたいと思います。

戻りまして7ページになりますが、7つの視点に関する現在の達成状況についてまとめた部分でございます。下にグラフがございまして、赤の棒グラフが「実現できている」という評価でございます。この評価が高かった視点は、「⑦躍動する仙台を創る」でありまして、「実現できていない」の25.3パーセントを上回っております。7つの視点の中で唯一「現在の達成度」の評価がプラス・マイナスを計算してプラスになるという視点が「⑦躍動する仙台を創る」でございました。

逆に「現在の達成度」のマイナス幅が大きかった視点は、「④仙台で育つ」、「②仙台でともに生きる」、そして「⑥仙台で働く」でございました。

続いて8ページは7つの視点の今後の重要度についてまとめた部分でございます。「特に重要である」が最も高かった視点は「④仙台で育つ」の54.1パーセント、続いて「⑥仙台で働く」の45.7パーセントというところでございます。

3つの結果を振り返りますと、やはり「④仙台で育つ」、子育て・教育に関しては最も市民の方の注目があり、そして評価が厳しく、今後の重要度が高いと考えている項目と言えるかと思っております。こちらの詳細は後ほどご高覧いただきたいと思います。

続いて資料1-2、そして1-2の別紙についてご説明します。こちらは、10月に行った「市民まちづくりフォーラム」の報告書でございまして、7つの視点に関連した市政の8テーマを拾い上げ、市民の皆さまが話し合いを行ったものでございます。5ページに当日話し合った8テーマを掲載しております。それぞれ7つの視点に関連付けたテーマとさせていたしておりました。

具体的なまとめですが、6ページ、7ページを1つサンプルとしてお示ししたいと思います。こちらはテーマ1の「杜の都のみどりの育み、未来への継承」の部分でございます。参加された方には、まず現在の取り組みをご説明した上で、その評価をいただいたところでございまして、そちらが6ページの下のところでございます。そして、「未来への提案」という形で次の話し合いを行いまして、そちらを次の右のページの上の方に掲載しております。

話し合いは非常に活発に行われ、こちらの報告書はきれいな形でまとめておりますけれども、もう1つの資料1-2の別紙は当日出されましたご意見を、抜粋ではなく、より詳細にまとめました。また、16ページからは当日まとめに使われた模造紙や付箋などをそのまま掲載させていただいております。どちらかという、こちらの資料が当日の活発な意見交換の様子がダイレクトに伝わるのかなと思ひまして、このようなものも今回お付けさせていただきます。内容については後ほどご高覧いただきたいと思います。

続いては資料1-3「東北における仙台的あり方と地域づくりシンポジウム」の報告書

です。こちらは、大都市としての今後の仙台のあり方を考えるシンポジウムということで、東北における仙台の役割、そして地域づくりの視点も含めまして、当日の齊藤良太氏からの基調講演と4人のパネリストによるパネルディスカッションの概要をまとめたものでございます。

仙台というものを広く東北の中の仙台という見方と、それから仙台の中でもさまざまな地域がございますので、その地域という目線の両方からアプローチをしたシンポジウムとなっております。報告の内容は後ほどご覧いただきたいと思います。

ここまでがご報告でございます。

続いて資料1-4が「区民参画イベント」。これから実施予定となっておりますが、区別計画の策定に向け、昨年度に引き続き、区ごとに行うものでございます。昨年度は各区の魅力や、どんな区だったらいいかというような未来像が話し合いのメインテーマでしたが、今年度は施策の方向性など、もう少し具体的な内容の検討に向けたワークショップを想定しております。

開催時期は1月26日の若林区を皮切りに2月16日まで、区ごとに行わせていただきたいと思います。具体的なテーマや進め方等につきましては、現在各区役所と調整を進めている状況でございます。

#### ○阿部一彦部会長

ありがとうございました。それでは、委員の皆さまからご質問、ご確認、ご意見がありましたらいただきたいと思います。いかがでしょうか。

たくさん資料があり、この場で読んでいただくのは時間が厳しいところでございます。

市民の方々からの大切なご意見、今後の審議に役立つことでございますが、ここは読んでいただくということで進めさせていただきます。

#### (2) 基本計画の検討について

##### ○阿部一彦部会長

次は議事の第2「基本計画の検討について」です。

この基本計画の検討について、今日はほとんどの時間を費やすということで進めさせていただきます。「基本計画の検討について」、事務局より説明をお願いします。

##### ○松田政策企画課長

資料2-1、2-2、そして昨日の「まちと活力部会」で委員から提出されました資料について3点ご説明を申し上げたいと思います。

まず、資料2-1でございますけれども、検討のメイン資料となります資料2-2の全体構成や流れを見やすくするため、ポイントを1枚にまとめたものです。資料2-2につきましてはこの後、ご説明いたしますが、前回の部会では資料の構成をもっとシンプルにすべき、とのご意見をいただいたところでございました。たしかに前回の資料では「まちづくりの理念」、「都市個性」、「都市像」、「本市が大切にしたい姿勢」、そして「重点的に取り組む7つの視点」と「6つのプロジェクト」など、複層的な内容がありまして、分か

りづらい部分があったと思います。

また、記載の内容についても、課題がいろいろなレベルであちらこちらに記載されていて、それも重複があるというご指摘も頂戴したところでございました。こちらは「まちと活力部会」でも同様のご指摘を受けたところでございますので、全体構成を大きく見直したというところでございます。

資料2-1のまちづくりの理念として、「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」を掲げ、その中で本市が持つ都市個性を深め、掛け合わせるということがここに盛り込まれております。

次の「仙台市の都市個性」では、4つの都市個性をつくり上げてきた背景について説明をしております。その次の「目指す都市の姿」は、4つの都市個性を深めることによって目指す都市の姿を具体的にお示ししている部分でございます。右側の「重点プロジェクト」では、目指す都市の姿の実現に向けて取り組む6つのプロジェクトをお示しているという流れでございます。ここには具体的な記載はありませんが、重点プロジェクトのほかにも政策を網羅的に拾い上げる部分である基本的施策の方向性、そして区別計画等々が並んでいくというような形で今回資料を構成させていただいたところでございます。

では具体的な資料のご説明を申し上げます。資料2-2をご覧ください。まず1ページをお開きください。「はじめに」の部分は「計画の策定に向けて」としまして、仙台市が目指す都市の姿と、その実現に向けた施策の方向性が書かれています。

その下ですが、仙台市に関わる方々がともに進む方向を共有していくため、この総合計画を策定しますという目的をここにまとめております。また、これまでの仙台の歩みを、これまでの経過に大きくまとめるとともに、時代の潮流についてもまとめております。

2ページでは、東北の中の仙台の役割をここにまとめ、まちづくりの理念として、仙台に関わるすべての方々と挑戦を重ねながら、「新たな杜の都」をつくっていくことをお示しております。また、3ページでは総合計画と一緒に推進していく対象者、そして計画の体系や基本計画の期間など、基本的な事項をお示しております。

続いて5ページをお開きください。5ページからは目指す都市の姿の部分でございますが、「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」というフレーズと、それから6ページには、前回ご意見がございましたので、新たな杜の都の概念図を載せさせていただいております。

続いて7ページからは、4つの都市個性を切り口としてこれを深め、目指す都市の姿をお示しているところでございます。前回のご意見の中で、「心と命を守り育てる」という取り組みの必要性について、委員からご意見をいただいたところでございました。この点につきましては、子どもの育みにとどまらず、支え合いの地域づくりであるとか、ライフデザインなどでも生涯にわたり生き生きと暮らすという観点があり、さまざまなプロジェクトの分野に必要な視点と考えておりました。今回は8ページの「共生」、こちらの「多様性が社会を動かす共生のまちへ」というところの下、具体的な都市の姿として「心と命を守る支え合いのもと、あらゆる人が社会に溶け込み、多様性が尊重され、そのままに包摂される、誰もが安心して暮らすことができるまち」として掲げさせていただいたところでございます。

以降、4つの都市個性、そして4つの都市像が並び、12ページから6つの重点プロジ

エクトのところになります。ここでSDGsのアイコンをお示しするとともに、次のページから掲載している重点プロジェクトでは関連する主なゴール、アイコンをお示しております。

前回、SDGsに関して、どんなものなのか説明が必要ではないかのご意見をいただきましたので、12ページ下に説明を記載しております。

13、14ページをお開きいただきたいと思います。こちらが1つのプロジェクトを見開き2ページの形でまとめなおしたのになっております。右上に先ほどご説明した、関連するSDGsのアイコンがあります。SDGsの取り組みに関しましては、今後も検討していくということでございましたけれども、SDGsを共通言語として同じ目的意識を持った方々への協働に向けたメッセージとして、ここに載せさせていただいているところでございます。

プロジェクトで前回の資料と変えたところがございますけれども、まず目標を掲げ、そして前回はありませんでした、現状はどうなのかというところで、ここに課題を整理させていただきました。そして右側のページが実施の方向性というところで、目標と現状のギャップを埋めるためのプロジェクトの内容が書かれるというような構成でまとめております。

15ページ、16ページが「みんなでつくる地域未来プロジェクト」というところでございます。現状としましては、人口減少が地域ごとに濃淡があり、もう既に進んでいるエリアもあるということで、地域の目線が重要だということの視点であるとか、未来技術を活用して地域の課題を解決していくというようなところもありますので、未来技術の活用例であるとか、そういったものをデータとして載せさせていただいております。

17、18ページが「笑顔はなまる子どもプロジェクト」でございます。こちらは統計としては0～4歳児の人口推計。子どもが減っていくというような現状。そして、次代を担う子どもたちの学びの環境づくりとして現在取り組んでいる仙台市の取り組みや、全市民アンケートなど、先ほどご説明した市民が多く着目している分野等々をこちらにまとめさせていただいております。

続いて19ページ、20ページが「いきいきライフデザインプロジェクト」でございます。仙台市の学生人口割合が高いというところで、学生参画のまちづくりの視点であるとか、中高生会議も行いましたので、若者の視点を生かしたまちづくりであるとか、そういったものをまとめております。また、年齢別階級別の職業率や、障害者手帳の保有者数なども幅広い視点の多様性を活かすという視点で重要かと思われましたので、こちらに載せさせていただいております。

21ページ、22ページが「TOHOKUチャレンジプロジェクト」でございます。次世代放射光施設の概要や、仙台市は開業支援件数が優位にある等々をこちらに載せております。また、東京圏に対して若者が流出していることは非常に大きな課題でございますので、その辺も踏まえております。

最後が23ページ、24ページの「せんだい都心再構築プロジェクト」です。現状は都市の建築物が老朽化している等々の課題と、人の流れに偏りがあるというような都心の現在の課題についてまとめているものでございます。



ここまでが6つのプロジェクトでございまして、25ページからは基本的な施策の方向性としてプロジェクトに関わる施策以外の施策も含め、網羅的にお示しをしている部分でございます。

そして最後の35ページをご覧ください。こちらには項目しか載っておりませんが、区別計画が続き、総合計画の着実な推進として、行政運営の方針の部分、市役所内部の観点も入ってきますが、持続可能な都市マネジメントということで健全な財政運営の推進等々、そして大都市としての仙台のまちづくりのあり方、そういったものと進行管理も今後検討されていくと思いますので、ここに入ってくるという想定でございます。資料2-2については以上でございます。

続いて、その下にあります、昨日、竹川委員からご提案いただいた資料について共有させていただきたいと思っております。

「～目指す都市の姿～」と題した資料でございます。こちらは委員から提案があったものでございます。委員の方からは、一番大きな部分である企業でいうところのミッション・ビジョンの部分についてももう少し議論があっても良いのではというお話がございました。

具体的には、都市像のところ、「新たな杜の都へ」というものがありますが、その「新たな杜の都」というものが今ひとつ分かりにくく、「何が新たな都なのか」というところを掘り下げたい、そして世界に向けて発信するという観点からも、検討して打ち出せないかという趣旨でご提案されたものでございます。

具体的なお提案としては、世界に誇れる新しい杜の都、「The Greenest City」Sendaiをつくる」という表現でございます。新たな杜の都へという都市像に具体性と方向性を付与したものとなっています。

1枚おめくりください。ページは振っておりませんが、参考2というものがあまして、ここには“Green”にまつわる言葉がピックアップされております。そもそもの緑という意味のほかにさまざまな意味があるということで、“Green”には例えば環境に優しいであるとか、下から2つ目にGreen Lightとありますけれども、これが青信号、いわゆる挑戦を推進するという意味も含まれているなど、Greenにさまざまな意味を込め、新しい杜の都の具体的な姿を“The Greenest City”と定義して理念の真ん中においてはどうかという内容でございます。

あえて英語を使うことで、世界に発信するということも意識しておりますし、Greenの後にさらに最上級を表す「est」を使うことで、その方向性も強く出しているというところではございます。

参考1には概念図がございます。2ページ目でございます。上にThe Greenest Cityとありまして、こちらは都市個性を集約・動員して、このThe Greenest Cityを目指すという方向性が1つと、同時にこれを目指すことで、さらに活力が生まれ、産業が集積し、住みたい人・挑戦したい人が集まるという相乗効果があるということで、逆の方向の矢印も付けているということです。

さらに1枚おめくりいただきますと、参考3がございます。こちらが世界の中のThe Greenest Citiesとして、さまざまなGreenの中の意味合いを捉えて、

世界の都市を順位付けしてあるものでございます。緑被率やエネルギーなど、さまざまな観点のランキングが並んでおります。

世界の中ではThe Greenest Cityという言葉は出始めているというところでございます。仙台は、住みやすさ、緑の多さ、あたたかさでは決して負けていないと思っているので、これを定義し、世界の他都市に負けない都市づくりを30年かけてやっていくために、是非委員の皆さま方と考えていきたいとのご説明も竹川委員からあったところでございます。

#### ○阿部一彦部会長

ありがとうございます。それでは意見交換に入ります。

前回の部会では、構成や章の流れに関するご意見も多くいただきまして、今回は事務局から説明にありましたように、大幅に見直し、シンプルな流れにした修正案を示していただきました。今回の部会では、特に「Ⅲ重点プロジェクト」を集中的にご審議いただき、具体の取り組みに向けたご意見をいただきたいと思います。前回と同様に、まずは資料の章立てごとにパートで区切っているいろいろとご意見をいただくという形で審議を進めたいと思います。

「Ⅰはじめに」から「Ⅲ重点プロジェクト」まで一通り終わった後に、章のつながりや文章の流れなどに関して改めてお聞きする時間も取りたいと思います。

それでは、まずは1つ目のパート「Ⅰはじめに」ですけれども、おおよその目安で5分程度ということで進めないで全体まで行き渡らない可能性もあります。5分程度で「Ⅰはじめに」を審議します。資料の1ページから4ページです。「Ⅰはじめに」はずいぶん分かりやすい文章になったと思います。

ご意見のある委員の皆さま、よろしく願いいたします。

では遠藤智栄部会長代行。

#### ○遠藤智栄部会長代行

大変読みやすく拝見しておりました。ありがとうございました。「Ⅰはじめに」のところと、計画策定のところにかかることかなと思ったのが、本審議会の1回目の時に委員の方から質問があって、法改正で総合計画は策定義務はなくなったということなのですから、「なぜ仙台市はあえてつくるのですか」という確認があったかと思うのです。私もそこはすごく大事ななと思ってまして、大きな切り替わりの第一弾となる計画がある意味こちらの計画なのではないかなということを確認していたのです。

そういったことを考えると、今までの計画については市民理解というか、もしかすると市役所で実施する計画だというふうにある意味理解されていた節があるのではないかと思うのです。ただ、今回はたくさんの市民参加の機会を通じて、いろいろな市民の方々に声を聞いたり、後は自分たちもどうやっていきたいのかということを知ったり、もっとこういうみんなを考える機会を増やして欲しいというようなご意見を私も本当にたくさん聞いています。

そういう意味では市役所がこれをやりますよという計画というよりは、市民みんなでこ

れを目指していきましょう、取り組んでいきましょうというような計画なのかなと思ったのです。ですから、そのためには市民の皆さんの参加とか、今日の商工会議所さんの提言書などを見ると、本当に企業さんも頑張っていただくことが大前提でないと、これを達成できないと思うのです。

この「Iはじめに」の計画策定に向けてのところに、今までの計画とは違って一緒に市民も取り組んでいってこそ、これが達成できるというか、達成していきましょうというようなことを何か分かるような文言が載っていると、それ以下に続くものも市役所だけでやるのではなくて、市民協働の掛け合わせでいろいろな人たちと一緒にやっていく。それでこそこのような“像”が実現できるのだということにつながっていくような「Iはじめに」になるといいのではないかなと思いました。

ですから、資料2-1に全体像、概要をお書きいただいておりますが、まちづくりの理念のところのすぐ下の1行目。先の見えない時代に突入した今だからこそ確かな理念が必要という、この「確かな」という言葉よりは、ある意味、市民が総動員してというのでしょうか。みんなで目指して取り組んでいく理念やビジョンが必要だという、何が確かなのか、今は不確かな時代と言われていいますので、みんなが「これを目指そうよ」と思えるような理念を今回はつくっているのだという表現がいいのではないかなと思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。委員の皆さま、領いていらっしゃいますが、いかがでしょうか。とても大事なご指摘だったと思います。

遠藤智栄部会長代行からのご意見に対して、事務局からお願いします。

○松田政策企画課長

部会長がおっしゃる通り、大変根本的なお話だったと思います。今の総合計画も書き方はまた違うのですけれども、市民力の拡大や、新しい市民協働の推進というようなものを都市経営の中に1つ置きまして、そういったところをお示しはしていたところではあるのですけれども、委員ご指摘の通り、その傾向はますます今後強くなるでしょう。

私たちも施策の方向性を書きつつ、しみじみ思いますのは、どの施策1つをとっても行政だけでできるものではありません。市民だったり団体だったり企業だったり、さまざまな方々の力があって施策が達成できるというところを日々感じているところでございます。そういったところがもう少し明確に市民の方に伝わるような表現を今後検討していきたいと思います

○阿部一彦部会長

佐藤静委員、お願いします。

○佐藤静委員

私もこの「揺らぐことのない確かな理念」のところ少し思いがあります。下手をするとガチガチの固定されたものにこれから先何年も縛られるようなイメージがあるので、こ

の辺は全体のプロジェクトも含めてのことなのですが、開放されたところがあった方がいいのではないかという気がします。いろいろな柔軟な対応、あるいは変更も含めて、そういう柔軟性を持った計画にした方がいいのではないかなという気がしました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。中坪委員、お願いします。

○中坪千代委員

私も、この「先の見えない時代に突入した今だからこそ」、同じところで引っかかっています。パッと見の印象なのですが、これを謳ってしまうと、市民としてはちょっと。学校でも PTA 活動でも同じなのですが、上の方でもこの先どうしようというような表現をしてしまうと、保護者、生徒、先生方も全員不安に陥るので、そういう表現は極力しないように、前向きな言葉を選んでいろいろな文章などを作成しています。「やっぱりこんな時代に突入したのだ」というような感想を市民の方から持たれてしまうと、この最初の文章はすごく大きいかなと。表現したいのはもちろん分かるのですが、それは誰しもが分かっている、あまり公に口に出してまでやってしまうと、本当にそういうふうになってしまうような気に駆られました。

○阿部一彦部会長

市民の皆さんと柔軟に取り組んでいく、そしてみんなでやって行くということを印象づけるためにも、最初から不安を持たれたら大変だという意見はもったもだと思います。

また、委員の皆さまから頷いていただきましたので、その辺のところも事務局からお願いします。

○松田政策企画課長

こちらは事務局の表現の力不足というところでございまして、たしかに「先の見えない」という表現はそのまま読むと不安になるところかと思えます。先が見えないというのは、本来は可能性があるというところでございまして、テクノロジーの進化とか、さまざまな部分もありますし、今世界的にも環境、緑に大きく注目しているようなところもありまして、決して先の見えない要素がマイナスのものばかりではない。もっとプラス、ポジティブなものも本来あるはずだということなのなのですが、今改めて私がこれを読むと不安しか感じないというところでございました。

また、「揺らぐことのない確かな理念」については、一般的にこれを読んだ方には「微塵も動かずに行くのだ」と受け止められる可能性があるということが分かりました。この辺りは委員のご指摘の内容は私たちも気持ちは一緒だったのですけれども、表現がこんな形になってしまっているというところで、ちょっと表現の方を直したいと思えます。

○阿部一彦部会長

永井委員、お願いします。

○永井幸夫委員

いつの時代も先は見えないし、先は読めないのです。だから委員の方々と同じ意見で、僕も最初は驚いたのですが、先の見えない時代に突入したというと、そんな大変な時代に突入したのかなと不安感に駆られるのではないかということが1つです。

それから、突入した今だからこそ、理念を持っていけば大丈夫なのかなと、それだけで済むのかなと。ですから、これはどうなのかなという気持ちがしました。

○阿部一彦部会長

奥村委員、お願いします。

○奥村誠委員

私がものすごく今の計画案でいいなと思っているのは、最初の審議会での計画案では前回の計画策定から10年経って、古くなったからそろそろつくらないといけないということだけでした。そこからものすごく進歩しているという点を評価しています。

そういう内向けの話ではなくて、たぶん計画のあり方というのが変わってきていて、目標像をしっかりとみんな1つのものとして持てて、そこへ行けばいいのだというふうになっていた時代から、もうそうではなくなっているという話があると思います。新しい問題や課題が出てきたり、逆に新しいチャンスが出てきたりするものを取り入れて行きながら、でもそれを取り入れていこうとすると立ち止まっていてはだめで、まずはこっちの方向に歩いて、そして少しずつ高い所へ行けば、また周りが見えるようになるから、歩みを止めずに何かを目指していきましょうと、きちっと決まった目標ではなく方向性だけを示しているのです。

だから、行きたい場所が決まっているのではなくて、あっちに行ってみたいという方向だけが決まっている。あそこに到達点があるわけじゃなくて、方向があるだけみたいな感じで今の計画を立てようとしている。だから、具体的に何年か経った時に、周りを見て、ちょっと置いてきぼりになった人がいるのではないか、こういう新しい課題が出てきているのではないか、あるいはこういう新しい技術が使えるのではないかという意見が出てきた時に、それを取り入れてその方向への歩みを続けていくというダイナミズム、動きみたいなものが実はこれなのです。何かどこかに行って、「はい、到着しました」「Happy」という話ではないということが結構よく書けているなというふうに私は思っています。「仙台市に関わる方々がともに進む方向を共有していくため、この総合計画を策定します」とこの2つ目の段落の最後の2行にあるのですが、これがたぶん本当の役割なのだろうなと思っているのです。

ただ、道標といえば、こっちに行ったらどこかへ行きますと書いてある物のような気がするので、やはり到達点みたいなことにとらわれているかなということもあります。この「先の見えない」から「道標を示すことが重要です」までの括りの3行ですか。ここは少し表現をもう1回考えた方がいいかなというふうに思いました。ただ気持ちとしては、先ほど言いましたように、たぶん歩まずに何もしなければ未来が開けてこないの、しっか

り歩きながら考えていきましょう。歩くのが大事だというフィロソフィーが裏側にあるというふうに思っております。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。先ほど「しっかり柔軟に」というお話もありましたけど、ただいまのご意見では、総合計画のこれからの方向性について、「また一緒に考えてやっていきます」ということの重要性をお話いただきました。

この辺は委員の皆さまの意見でございますので、事務局、検討をお願いいたします。

○松田政策企画課長

はい。分かりました。

○阿部一彦部会長

もう次のところに一部入っています。先ほど、「先の見えない時代」という点もしっかり検討していただく必要があるというご指摘でございましたが、先の見えない時代がまた5ページにあります。「Ⅱ新たな杜の都に向けて」に進ませていただきます。資料の5ページから10ページです。

この部分は、まちづくりの理念と4つの都市個性の掛け合わせとの関係を分かりやすく示しています。6ページには審議経過で作成し、今回はこれが必要だということで再び登場した木のイラスト、7ページからの4つの都市個性の部分には、時代背景や大切にする姿勢を溶け込ませたところが大きな修正点となっております。10分程度の時間を目途に進めたいと思います。

「まちと活力部会」では竹川委員からまちづくりの理念に関する新たなご提案があったということで、先ほど資料についても説明がありました。このことも含めて委員の皆さまからご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

中坪委員、お願いします。

○中坪千代委員

勉強不足だったらごめんなさい。最初の「Ⅰはじめに」のところでも思ったのですが、まとめや結論が最初に来ているのは、これはこういう方向でということなのですか。

最初の頭出しに、「Ⅰはじめに」もまとめというのが来ていた。次のところも結論というのが最初に来ていたというのは、こういう形でという方向で決めたのか。一般的な方法だと最後にまとめ・結論なのではないのかなと思う。

○奥村誠委員

子どもに国語の論文を読ませる時に、一番大事なことは、一番前か一番後ろに書いてあると教えていると思います。そしてどちらにするかという時に、最後に書いてあると初めから読んでいくうちに考え方が違う人はだんだん腹が立ってきて最後まで読んでくれない恐れがあるから、最初にこうだと言ったら、何故だろうなと思って最後まで読んでくれ

るかなという考えでこのようにしています。

この方が説得力はあるのではないかと私は思ったので、いいかなと思っています。こういう書き方もあると。

○中坪千代委員

奥村先生がおっしゃる通り、まとめにしても結論にしても内容がとても分かりやすいので、もうちょっと書体とか形を変えていただけたらもっと入り込みやすいのかなと思ったという意見です。

○阿部一彦部会長

そこに着目するような書体も含めて検討した方が。

○中坪千代委員

結果なのだというような部分があると分かりやすいのかなというふうに。

○阿部一彦部会長

なるほど。

○中坪千代委員

どうしても同じ形で読んでしまうので、見方の問題なのですが、とても大切なことだというふうな部分で、太字にするなり少し変えるなりというのもいいのかなと。

○阿部一彦部会長

大事なお指摘、ありがとうございました。

そのことも含め、後から事務局からお話しいただきますけれども、委員の皆さまからご意見をいただいて、それから事務局とのやり取りをしたいと思います。その経緯・結果の中で奥村会長、また助けてください。

○奥村誠委員

質問をするのを忘れていました。この左側にある「結論」とか「強みの概要」とある囲いの部分は、でき上りのところでは付くのですか、付かないのですか。

○松田政策企画課長

こちらは最終的には消す想定でおりました。

○奥村誠委員

消えるのですか。

○松田政策企画課長

今は議論が分かりやすいように、構成が分かりやすいように書いておりますけども、最終版としては消す想定でこれはつくっておりました。

○奥村誠委員

そうなのですか。こういうふうに読んでくださいというガイドとしては、付いていてもいいのではないかと思っています。それこそ国語の問題ではないのだけでも、この文章の一番大事なところはどこでしょうと。これが付いていた方が読む人が悩まずに分かりやすいのではないかという感じがしました。新しいなと思って聞いていましたけど、そうですか。分かりました。

○阿部一彦部会長

事務局、お願いします。

○梅内まちづくり政策局次長

先ほども申し上げましたように、前回構成については両方の部会で「計画案の構成が複層化しすぎて分かりにくい」とのご意見がありました。それで今回はこのようにすっきりさせた時に分かりやすいようにということで、左側の見出しをあえて入れております。

先ほどの中坪委員の方からもありましたけども、こういうのを入れておくと、ここを見てほしいというのがすごく伝わるのだなということを変更して思いましたし、私どもも読んだ時に読みやすいと思いました。

先ほどもありましたけど、「結論」という書き方はいいのかどうか。先ほどの「揺るがない何とか」のような表現のような気もするので、結論という書き方を含め、いろいろ直さなければいけないかもしれませんけども、この部分を書く・書かないということを決めているわけではございません。もし、非常に読みやすいということで全体の審議会で同意をいただけるのであれば、表現についての修正はもちろん、先ほどいただいた書体や線囲みなど、いろいろこれから工夫をしながら読みやすい見せ方を考えてまいります。市民の方に読んでいただいて一緒に「そうだね」と共感をいただいたり、あるいは議論が起きたりということが大事だと思っているので、そういったご意見を踏まえながら、その書き方や表現の仕方、先ほどの字体も含めて今後考えてまいりたいと思っております。

今回、事務局のつくった意図としては、前回のここを直しましたというのを委員の皆さんにお伝えしたいという意図だったのですが、それが非常によく伝わっているということを確認できて少し嬉しく思っております。

○阿部一彦部会長

先ほど、このように左側に付いている方が読みやすいのではないかという意見もありました。また領いていただいておりますけれども、これについては全体会で諮るということで、私たちの部会ではとても良い印象を持ったということでもよろしいでしょうか。

ありがとうございます。そのほか委員の皆さまから。

阿部重樹委員、お願いします。



○阿部重樹委員

内容に関わることでないので申し訳ないのですが、用語の統一を図られた方がいいかなというところが1カ所ありました。今更ながら申し訳ございません。

8ページの中段、「未来へ」というところございます。8ページの中段、まさに見出し項目がオレンジで「未来へ」。書き出しの部分が「少子高齢化の進展」となっております。今回、資料としてお出しいただいた資料2-2の中では、「人口減少・少子高齢化」というのが4カ所ぐらい出てきたような気がします。現状との照らし合わせでも、「人口減少・」があった方が統一感はあるのではないかとというのが1点です。

それから、進展と進行はどちらでもいいような気がしますので、これも「の進展」というのと「の進行」というのが結構混在していますので、これもどちらかに合わせられた方がよろしいのではないかと。まさに国語の表現の問題の指摘で申し訳ないのですが、取りあえずそこだけです。

○阿部一彦部会長

大事なお指摘ありがとうございます。ではそのようにということでもよろしいでしょうか。岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

前回よりすごく分かりやすくなっていて、素敵だなと思いながら読んでいました。私からは、竹川さんがご提案してくださった「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」のところの具体性をもう少し与えた方がいいのではないかと、「“The Greenest City” Sendaiをつくる」というところがとても好きだなと思いながらこの資料を拝見しています。

何でこれがいいなと思ったのかを考えていたのですけれども、先ほどから「先が見えない時代」というような表現をいきなり頭から入れるのはどうなのかみたいな議論があったと思います。私も「先が見えない」という表現についてはちょっと見直した方がいいかなと思うものの、これは「先が見えない」と書くから何かネガティブに捉えてしまうのかなと思っています。どちらかというところ「先行きが不透明な」、もしかしたらその技術革新ですごく面白い事が起きるかもしれないし、というポジティブなところも含めた先行きが不透明な時代ということだと思っています。

そういう中で柔軟性を持っておくべきだということもすごく分かりますし、ただその中で、柔軟性を持っておきたいからそのビジョンも漠然としたものにしておくというのは、反対です。この太枠でくくっている「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」というのがビジョン、会社における理念なのだとしたら、それは大きく夢を書いているのではないかとというふうに思ったからです。なので、竹川委員が言っているような最上級、「e s t」と付けるぐらいの夢を書くのは良いのではないかと私は思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。竹川委員が提案された“The Greenest”、「est」の部分ということは、とても大事ではないかと。このことも考えるべきではないかということですが、このことについては委員の皆さま、いかがでしょうか。とても大事なご意見ですよ。奥村委員、お願いします。

#### ○奥村誠委員

結局、このGreenest Cityというのが、「新たな杜の都」というものをうまく表した言葉なのかどうかなのです。たぶん全体の会議では、「新たな杜の都」ということに対しては別に異論はなく、「やっぱりそうなんだよね」ということになっているので、それがイコールで“The Greenest City” Sendaiならば、何も問題がない話で、これを使うのがいいのではないかと。

しかも、Green Cityではなく、Greeny Cityでもなく、Greenest Cityということは、ほかのまちが仙台を追い越しそうになったら、きちんとその先を、次を考えて進まなければいけないということを言っているわけだから、そういう意味でいうと素晴らしいです。これが「新しい杜の都」というものの英語版の表現だということで、皆さんに納得していただけるなら、この「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」の下に、Greenest Cityを入れてしまうのがいいと思います。Challengeはあまりいい意味ではない英語なので、Trial、分からないですけど、Creation of “The Greenest City” Sendaiか何か、そんな感じのものにして、この日本語のキャッチフレーズの下に英語版をそのまま入れてしまうというのがあるといいかなというのが1つです。

皆さんが「新たな杜の都」と言っているものが、The Greenest City Sendaiで合っているということを一統でお感じになっていけば問題ないだろうというふうに思いました。

2つ目はどうでもいいことですが、私は遊びを結構したいものですから、GreenestのGreenを使って、例えば4つの都市個性というのを何か表せたりしないだろうか、先ほどからずっとそんなことばかり考えているのですが、共生のところがちよっと難しいです。

GrowthがGで、環境がEnvironmentでも、学びというのはEducationというよりもExperimentalかなと思うのですが、活力はEnergeticでEで行けるな。ただ共生がちよっと無理だとか、共生がNetworkingだったらいけるのだけど、Networkingではないよとか思って、Reactiveかな。何かRで始まればいいとか思いつつ。

Greenest Cityというので、私たちが言っている「新たな杜の都」というのが私はある程度当てはまっているなと思っているのです。

ですから、私としては「いいかな」と思いますが、ほかの方から特に異論がなければ、この「挑戦を続ける、新たな杜の都へ」の下に、Greenest Cityをうまく入れた英文版のキャッチフレーズをつけて、2行にしたらいいいのではないかとこのように思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。ところで、竹川委員が「まちと活力部会」でお話しされた時は、議論でそういうものがあつたものかどうか。ちょっと確認なのですけども、お願いします。

○松田政策企画課長

竹川委員からこちらをご提示された後、昨日の部会では結構多くの時間をこの議論に費やしたところでございます。委員の皆さま方の反応としましては、概ね好評といたしますか、良い表現であるというような受け止めが大きかったところでございます。

Greenという言葉には、厳密な意味ではないにしても、さまざまな価値というか、意味が込められるのではないかと、4の都市個性をこのGreenから派生する言葉で全部表せないかとか、そういった視点で4つの都市個性をもう1回見てみるというのでもいいのではないかと、ご意見であるとか、Greenというのはいさよ温かみであるという話とか、命を育む、そういった意味もこのGreenの中に込められるのではないかと、さまざまそういったご意見がありまして、非常に盛り上がったところでございました。

○梅内まちづくり政策局次長

重ねてなのですけども、昨日の部会の渡邊部会長の方も、大きなテーマの部分であり、まさにミッションに当たる部分でありますので、そこに書き加えることについて、本日こちらの部会にもお示しをし、ご意見も踏まえて賛同が得られるようであれば、阿部部会長あるいは奥村会長の方ともご相談しながら、そのように進めたら良いのではないかと、ご意見で最終的にはまとまったところでございます。

○阿部一彦部会長

ということで、委員の皆さまいかがでしょうか。このGreenest。よろしいのではないかと、ご意見ですよね。

私たちの部会でもこの“The Greenest City” Sendaiについて、皆さんの賛同を得られたということでよろしいですね。どうもありがとうございます。

そのほか。遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

今の話に続くのですけれども、6ページの概念図のところなのですが、これが「新たな杜の都へ」ということで木が3本あるという状態なので、ある意味Greenにまつわる言葉ということでは都市計画・エネルギー・コミュニティ・製品・経済・労働とか、そういったことも含めて、仙台はGreenestみたいなところを目指していくとすると、木が3本というよりは、何か表現がもうちょっと違った方がいいかなと思いました。

○阿部一彦部会長

大事なお指摘。

○佐藤静委員

5本ありますよ。

○阿部一彦部会長

そうですね。5本ありますね。

もっとあった方が、これに工夫を加えることができるのであればということですね。

○遠藤智栄部会長代行

木がいいのか。Greenestの意味合いが何かここに表現された方がいいのかなという気が。

○阿部一彦部会長

中坪委員、お願いします。

○中坪千代委員

私が最初の頃の審議会でこの案を出したのは、昨年仙台市PTA協議会でハンドブックをつくった時、このイメージ図を全保護者にイメージしてもらいたくてつくったからです。仙台市PTA協議会のハンドブックでは、ここにリンゴの実が付いているのです。これが子どもたちで、太陽が地域の人たちですよとか、土の方にはモグラがいて、それは地域のおじいちゃんですよとか、遠藤智栄部会長代行がおっしゃった通りに、その目標に向かうものを全部取り込みました。分かりやすくするために。

なので、ご指摘があった通り、もうちょっとイメージが湧くような形に付け加えるのは、とても賛成かなと思いました。

○阿部一彦部会長

では、そのようなことで、また提案をいただいたりしながら委員の皆さんからご意見をいただいて、というふうに進めるということではよろしいでしょうか。

○松田政策企画課長

次回までにこの絵がどこまで直せるかというところではありますが、この絵がこれで完成というわけではございませんので、いただいたご意見につきましては盛り込んで充実させていきたいと思っております。

○阿部一彦部会長

8時までなのでございますけれども、このパートでだいぶ時間を費やしてしまいました。次の「Ⅲ重点プロジェクト」をしっかりと取り組むということで、いったんそちらに移らせていただいておりますか。

では、「Ⅲ重点プロジェクト」です。資料では12ページから24ページです。

前回資料に掲載されていた「7つの重点的な取り組みの視点」はあくまで経過点であって、載せているとかえって分かりにくいというご指摘がありましたので、カットされております。

それと、各プロジェクトに「現状」というパートでできるだけ客観的なデータを載せるということで、数値的な現状を表すグラフなどが追加されております。

今回の部会では、特に「Ⅲ重点プロジェクト」を集中的にご審議いただきたいということで、具体の取り組みに向けたご意見をいただきたいと思っております。

6つのプロジェクトのうち当部会の所管は、②みんなで作る地域未来プロジェクト

③笑顔はなまる子どもプロジェクト、④いきいきライフデザインプロジェクトの3つのプロジェクトです。ここにつきまして、まず皆さんからご意見をいただきたいと思っております。目途として想定していた7時35分まででは足りなくなるかもしれませんが、時間を過ぎても大事なことはしっかりやっていきたいと思っております。そして、それが終わってから、もう1つの部会の3つのプロジェクトについて、ご意見を伺いたいと思っております。

まずは私たちが所管する3つです。②、③、④ということで、意見をお願いいたします。いかがでしょうか。奥村委員、お願いします。

#### ○奥村誠委員

②「みんなで作る地域未来プロジェクト」についてですけれども、右側を見ると、あるいはこのところで何か扱われているところを見ると、いわば言葉は悪いのですが、全手的な手当てではなかなか難しいところ、地域で何とか頑張ってくれということを書いてあるような気がしてしまいます。何か申し訳ないけども切り捨てのようになってしまう。

特に右側16ページ、実施の方向性がちょっと辛いのかなあ。例えば交通のところというと、公共交通機関の行き届かないところを地域交通で支えるということだけど、ではほかのところは何もしなくていいのかという話があります。

つまりバスなどの公共交通機関が無理になってきた地域だけの話だけではなくて、公共交通というものは、当然みんなが関わる中で支えていかなくてはならないということです。皆さんご存知かどうか分かりませんが、以前は仙台市でも、公共交通機関の乗り降りを一般市民が手助けするサポーター制度のようなものがあった。

こういったような、「みんなで支えましょう」ということは、その公共交通の維持に困っている地域だから行うという話ではなくて、もっと全般的に必要なのではないかというふうには思います。

この②のプロジェクトの書き方は少し、特に困った密度の薄くなってしまったところだけを取り出して、今までの公助でやりきれないところを共助の支えあいで頑張ってくださいみたいな感じがしてしまって。切り捨てみたいに見えないかなというのが少し心配だということです。

#### ○阿部一彦部会長

公助から共助へ、住民の方々へということがあまり強く出過ぎてもどうなのかなというご意見だと思います。後は交通については奥村委員、交通システムというのはこれから S o c i e t y 5.0 というものでいろいろ変わっていくものなのですか。

#### ○奥村誠委員

市がどうするという問題よりも、先にたぶん、要は運輸、輸送というか、公共交通のあり方自体が今まで公共と言っていたのですが、公共交通なのか、公共交通ではないのかというものの境がこれから崩れてくるのです。

というのは、U b e r（ウーバー）とか、ああいうものが外国でも出てきています。たぶんそうすると、職業運転手だけが人を乗せてお金を取ってサービスするということができていう仕切りになっているのだけど、そうではなくなってくる。そうしたことで職業運転手が生活していけるだけのほかの人を乗せる仕事がなければ、タクシーは成立しないわけです。たぶん地域ではその時に手が空いている人がほかの人を乗せてあげるとか、その時にどこかへ行きたいと思っている人が横の座席が空いているからとほかの人を乗せてあげるといようなものをもっと活用していかないと、立ち行かなくなるというふうになってきているのです。

だから、そこにIT技術が入って、U b e r（ウーバー）みたいなもので誰もが周りの人を乗せていってあげられるよというような形にすることによって、この公共交通で支えられないところが大きく変わるのではないかという見通しはあります。

ただ、法律上は自動車運送法なる法律がありまして、それはできないことになっているのですけれども、「できないことになっている」と言っているのは、たぶんここ数年ぐらいの間で、10年もしないうちに「いや、もっと全般的に認めましょう」という話になると思うのです。「なると思います」ということが、今の見通しです。「今すぐできますか」というと、できないのですが、それはたぶん仙台市よりも全国的に先にもっと条件の厳しいところで先に進む話です。法律の見直しが先に行われた時に、実施可能になったところを見ておいて、そこにすっと乗るといふ後出しジャンケン戦略がいいと。別に仙台市が最初に国に面と向かって「うちが先にやりたい」という必要はないと思います。

#### ○阿部一彦部会長

ありがとうございます。これから期待されるということと、でもどうなっていくのかなという楽しみな部分もありますけれども、そのようなこともこれから起きていくということですね。大事なことです。委員の皆さんいかがでしょうか。

遠藤智栄部会長代行、お願いします。

#### ○遠藤智栄部会長代行

今、奥村委員がおっしゃっていた地域と交通のところなのですが、このテーマだけではなくて、私はやはり市民が問われていると思うのです。どれだけ公共交通に税金を投入するのか。アンケートでも交通の部分がとても皆さんの注目度が高いと思うのですけれども、それだけ利便性の良い交通網を配置するためには乗車率がどのぐらいで、どのぐらいのお

金がかかるのか。

では、そのぶん赤字でも、これは市民の権利として是非確保したほうがいいという市民が多いのかどうなのかということを中心に市民が勉強して考えて、そのうえで少し結論に近づいていくような、もっともっと市民も自分たちの市の財政のことを勉強しながら、話し合っただけで結論に近づいていくことが、交通に限らず必要だと思います。

ちょっとこの場所からは外れますけども、そのためには地域の未来を考えるプロジェクトの中には、すぐ答えに短絡的に行くのではなく、やはり熟議をしながら、きちんと考える市民、考えて出した結論に責任を持つ市民が育つみたいなことも入ってくるのかなと思っています。直接的に文言を変えるということではないのですけども。

#### ○阿部一彦部会長

ありがとうございます。これからの市民協働ということで、みんなで考えていくということは大事ということですね。是非そういう仙台であるべきですし、そのようになっているというお話もいろいろなところで伺うことがあります。ほかの地域の方々、ほかだからよく見えるのでしょうか。何か仙台をいろいろなところで褒められることもありますけども、さらにしっかりと取り組む必要があると思います。

委員の皆さん、いかがでしょうか。まだ時間はあります。このところはとても大事なことですから。

阿部重樹委員、お願いします。

#### ○阿部重樹委員

私の中でも自分自身が質問というか、意見を述べることについて、完全にまともでないというか、落ち着きがなくて発言してしまうのですが、②「みんなでつくる地域未来プロジェクト」の目標のところ、それから実施の方向性の01「地域×支え合い」との関係は、私が所属しているところに関わるので、大変良く対応しているなというふうに思って読ませていただきました。そのうえでですが、どこが落ち着き悪いかというと、15ページの目標の3行目の辺りのところで、「それぞれが協働することで地域への愛着を深めるとともに」というところです。これは間違いではないのかもしれませんが、地域への愛着を深めるとというのが、何かここだけに限定されて理解されるのではないかという気がするのです。

例えば、前段の部分の冒頭の議論でも、理念と実施の方向、基本的な方針が出てきたと思うのですが、どちらかというと、地域への愛着を深めるといのは理念的ですよ。これがこれだけの手段で地域への愛着を深めるといふふうに理解されてしまうような気がするのです。協働することで地域への愛着が事実強化されるだろうと。だけど、地域への愛着はもっと別に醸成されるものではないかという思いもあるものですから、その辺のところの落ち着きの悪さをちょっと私は感じてしまったという意見です。

#### ○阿部一彦部会長

大事なご意見ありがとうございます。ここも工夫が必要ということですね。

まずは委員の皆さまからある程度意見をいただいて、そして事務局とのやりとりという

ふうに進めさせていただいてよろしいでしょうか。

中坪委員、お願いします。

○中坪千代委員

文字の確認ですが、16 ページの多様性の理解の括弧です。「年齢、性、国籍」、ここの下りが8 ページあたりにも同じものを引用されているのですが、こちらは「年齢、性別」となっています。これは抜けでしょうか。「性」と「性別」の違いは。

○阿部一彦部会長

事務局、お願いします。

○松田政策企画課長

先ほどから不手際をご指摘されて面目ございません。意図的に書き分けているわけではなくて、ここは抜けでございます。

○阿部一彦部会長

中坪委員、よろしいでしょうか。

○中坪千代委員

今は③のプロジェクトの審議に入っていませんか。

○阿部一彦部会長

②、③、④どこでも。

○中坪千代委員

ではこの流れで。18 ページなのですけれど、01 の貧困対策という部分、子どもと社会の部分です。括弧書きで（学びや遊び、地域交流の場づくり）。貧困対策をこれで解決させていいものかという部分が大きく引っかかりました。貧困対策をなぜかこのちょっとした下りだけで解決するのではなく、私は、これはもう親の問題だというふうにも思っています。親の支援をどういうふうにしていくかという部分を考えて時に、遊び場とか地域交流はその先の話であって、というようなざっくりとした考えで見えてしまうのですが、この表現を変えた方が良いのではないのかなと思っています。

先ほどから皆さんが言うとおりの、この 01 「子ども×社会」も 02 「子ども×家庭」もですが、どこに当てはめるべきなのかがちょっとごちゃごちゃしているかな。「これはこの部分においていいのかな」というのも正直ちょっとクエスチョンマークが付いている表現の文章かなと思っています。

後、ひとり親家庭への支援という部分。この流れだと貧困対策をするには、必ずひとり親家庭の支援を優先すべきなのか。実際、私自身もシングルマザーなので、どうなのかなと。実際、親が両方いても貧困の家庭はあるし、虐待をしている家庭はあるというふう



思っているので、ちょっと表現が難しいシビアな部分かなというふうにも思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。  
永井委員、どうぞ。

○永井幸夫委員

これはあくまでも行政だけで計画を立てるわけではなくて、これは市民にも理解してもらうための計画ですよね。そうなりますと、16 ページの地域と交通のところの、モビリティ・マネジメントとか、それから地元企業のCSR活動や、CSV活動と言われても、一般市民は何のことかまったく分からないのではないのでしょうか。もっと市民に分かるような文言にしたほうがいいのではないかと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます、  
阿部重樹委員、中坪委員、永井委員から表現についてご意見が出ました。  
それに関して事務局からお願いします。

○松田政策企画課長

同じ意図をしている言葉でも、表現が揃っていないところが散見されるということは、こちらのチェック不足というところでもございましたので、そこはもちろん揃えていきたいと思っております。

それから阿部重樹委員からの「地域への愛着を深める」というのが、要は協働だけがツールなのかと言われると、地域への愛着というものはもっと大きな話であるというところで、実は子どもの育みのところにも子どもが地域に愛着を持つというようなご議論が以前にもあったかと思います。そういう意味では、もし書くのであれば、散りばめてほかのところにもやはり書くべきかと思っておりますので、そのところは偏りがあるというふうには受け止められないように、常に全体のバランスも見ながら書いていきたいと思っております。

それから中坪委員からの貧困対策、ひとり親家庭の支援というところ。こちらは貧困対策のところの括弧の括りがまだまだ不十分な内容かと思っております。こちらは今このレベルで書いておりますが、今後はもう少し、もちろんこれに肉付けをして、もっと丁寧に書いていきたいと思っております。その中でも貧困対策というのが子どものケアだけではなく、もっと親の支援も含めて貧困の連鎖を断ち切るというようなところも含めて、広く考えなければならぬ問題だと思っております。そちらのところ、表現はさまざまデリケートなところがあるかと思っておりますが、そちらは委員の皆さまに揉んでいただきながら、もう少し丁寧に書いていきたいと思っております。

それから、一般市民が普段は使わない用語が散見されているというところ。これは重ね重ね私どもが日々反省しているところ。作り込んでいる人間は毎日見ますので、違和感を覚えなくなってくるのですが、やはり初めて見ますと、分からない。日々、

私どももよく分からない用語が飛び交っていると、後でこっそり調べたりするのですけれども、そういうところが実はこの資料にもたくさんあるというところを今改めてご指摘いただきました。

前回のSDGsという言葉もそうだったと思いますが、きちんと補足をつけるなりして、横文字を使った方がより便利な場合もあると思いますが、そういう時はきちんと補足をつけるなり、なるべく平易な言葉を使うなりということで、市民の方に読んでいただいてななぼの計画だということところは常に忘れないようにしてつくってまいりたいと思います。

貴重なご意見ありがとうございました。

#### ○阿部一彦部会長

どうもありがとうございました。市民の方のご理解とともに一緒に取り組んでいくということです。委員の皆さんありがとうございました。

そのほか、私たちの所管の②、③、④のプロジェクトですけれども、ご意見をお願いいたします。佐藤静委員、お願いします。

#### ○佐藤静委員

③「笑顔はなまる子どもプロジェクト」のところですか。これは子ども中心なのでこういう書き方になるのかなという気はしますが、子どもの問題と親の問題は、同じくらい比重があって、親のメンタルヘルスに対する支援みたいなところをきっちり書いていた方がいいのではないかなという気がします。親自身のメンタルヘルスの支えみたいところですね。

#### ○阿部一彦部会長

大事なお指摘だと思います。佐藤和子委員、お願いします。

#### ○佐藤和子委員

私も今のご意見、賛同しております。特に子育て環境が以前というか昔とは変わって、やはり母親です。産前産後、分野別の方にはきめ細かな産後ケアみたいな文言は載っているのですが、やはり子どももそうですけれども、生み育てる母親を、子育ての世帯という表現でもいいとは思いますが、やはりそこをここに入れた方がいいのではないかなというふうに思います。

それから、もう1つはどこのプロジェクトに入るかは分からないのですが、今はひきこもりも大きな問題になっておりますので、地域で見守っていく、行政で見守っていくということ。それこそ市民協働で、そういう施設の方々も対応してくださっているのですが、ちょっとしたさまざまなつまづきから今そういう状況になっているというのがやはり深刻化していて、そこを②「みんなでつくる地域未来プロジェクト」のところに入れたらいいのか、その辺はちょっと分かりませんが、それもどうかと思ったところです。

あともう1つは障害者の方々の情報保障にはやはりまだまだ課題があると思います。どうしてもバリアフリーというハード面の部分に思いがちですが、情報を得るため

の部分はまだ十分でないという仙台市としての課題もありますので、そういうことも盛り込まれたらいかがかと思えます。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。2人の佐藤委員から発言があったことに関して、事務局で何かコメントできるものがあるならばしていただけますか。大きい課題でもありますけれども、いかがでしょう。

○松田政策企画課長

今この部分にこのようにという具体的なお答えは難しいので、いったん引き取って検討したいと思えますが、大切なご提案をいただいたと思えます。

障害者への情報提供というところですが、これはもはや障害者というよりは、今後多様性ということを考えた時に、もちろん障害者もありますし、もしかしたら外国人の方とか、さまざまな方々への情報発信というものを仙台市はこれから考えていかなければならないと思えます。

そういう意味では、多様性を1つの重要な理念に掲げたところもありますので、思い込みで書いていないかということも含めて、そういったところをどこかに入れていきたいというふうに思っております。

あと、「笑顔はなまる子どもプロジェクト」では、やはり親の支援、子どもだけに着目するのではなくて、親があつての子どもというところで、両方考えていかなければいけないということでございました。

今、親のところと子どものところと分けて書いたりしているところもあるのですが、本来この1つの課題は両方に対応していかなければならないというところがあるというふうなご指摘の受け止めだと思えましたので、そういったところも含めて検討してまいりたいと思えます。

○阿部一彦部会長

奥村委員、お願いします。

○奥村誠委員

③「笑顔はなまる子どもプロジェクト」のところなのですが、左上の目標のところの最後のところ。「子どもを通じて家庭はもちろん」の後です。最後の2行ですけど、「関わる方々も生きていく上で大切なことを新たに学ぶことができる、みんなが成長していく子育て応援社会を目指します」というのは、これはいいことだと思うのです。というのは、要するに子どもというのがサービスの受け手であつて、それに対してサービスを十分与えなければいけない。保護しなければいけないのは確かなのですけれども、そこに関わることによって、周りの人の方が新たに気付く、例えばこういうところに喜びを感じる、子どもが楽しんでいるのを見て、これが大事なのだということに気付くみたいなことでみんなが成長するというのはものすごく大事だと思うのです。しかし、実施の方向性の右側のペー

ジに行くと、そのことはどこにも書いていない。子どものことばかり書いてある。子どもがどう困るかみたいなことが書いてあって、その子どもと関わることで、実は周りも良い影響を受けるということが本当はあるのだろうなど。

ただ、右にないのは残念だなとは言いながらも、これが抜けている、これが抜けていると言い出すと、たぶんまた網羅的になってしまって、プロジェクトなのか、前半のものを分けて書いてあるだけなのか分からなくなってしまうから、こだわることはないかも分からないですけど。左側の目標のところは一方的に誰かがサービスを受けなければいけないとか、誰かが助けてあげないといけないというような一方的な見方ではなくて、地域全体でどうやってその問題に関わるのか、もちろんその中で市が役割を果たさなければならないことはとても大きいのですが、周りの人々がそれぞれの立場から関わられるようなところに関わっていってもらいたいというような考え方が根本にないといけないような感じがするのです。できれば「子どもと関わることによって、何かの喜びを感じられるような、生き甲斐を感じられるような社会にします」みたいな何か右側にあってもいいのかなというふうに思いました。

○阿部一彦部会長

ありがとうございました。そのことも踏まえてよろしくをお願いします。

○松田政策企画課長

今は子どものことに関して、一方的なサービスの受け手ではなく、相互が学び合うというような関係性のことをご指摘いただいたと思います。

そのことは実は地域の支え合いでもあり得ることだと思っております、支えられる側がある場面では支える側に回るといったところが、より地域の支え合いの中で起きてくることかと思っておりますので、その視点についてはこの2つのプロジェクトにきちんと落とし込んでいきたいと思っております。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。地域の支え合いということで、先ほど社会福祉協議会の立場から阿部重樹委員の発言がありました。

傳野委員、いかがでしょうか。住民同士の支え合いということが強くこれから大事になっていくと思っておりますけども。

○傳野貞雄委員

前回は出張でいなくて参加できませんでした。先ほどから皆さんのお話を聞いて、発想だとか、いろいろな部分で大変感心しながら聞かせていただきました。

地域の支え合いと言いますが、私は仙台市が全国で一番、お年寄りに優しいまちだというふうに理解しています。まず交通手段としては地下鉄だとか、バスを9割税金で賄っているというところはありません。

私ども、地域で高齢者が高齢者同士を助け合うという、「結いの会」というのをつくっ

てやっています。そこで最近「くれない族」と私は言っているのですが、みんなの恩恵を受けすぎて欲が出てきて、「ああしてくれない」「こうしてくれない」「どうしてくれる」というお年寄りが、「自らどうするか」という課題を人に押し付け、「こうしてくれないか」と言うわけです。

言っではいけないことを言いますが、坪沼地区で取り組まれている地域交通が、9割が市の援助で賄われる公共交通と比較すると、高齢者にとっては運賃が高すぎると言う人がいるのです。せつかくあれだけのことを一生懸命しているのに。そういうのがだんだん贅沢になりすぎているので、ここで地域交通のあり方の検討というところ、もう少し自分たちも考えて発想をくださいよと。どうしてほしいのと。それにはこれだけのお金と時間がかかるのですが、あなたたちは望んでいるものに対してどういう貢献をしてくれるかというぐらいのことは、書いて差し支えないのではないのかなと。

長生きすればみんな天から恩恵が降ってくると思っていて、自ら肩で支えるという苦勞が足りない人もいます。3.11のことを言うと、私のところに明泉幼稚園というのがあるのですけれども、先生は男の先生で、みんな外国人なのです。心配して「どうしましょうか」「避難所に入りますか」と言ったら、「日本人の人は群れるけど、我々は個で戦います」と。これは重かったですよ。

ですから、答えになりませんが、何でも恵んでやる式の「くれない族」に関しては、彼らの話を聞きながらやれる部分とやれない部分を明確にした方がいいのではないかなというのが私の意見です。

#### ○阿部一彦部会長

どうも大事な意見ありがとうございました。今の傳野委員のご意見も、みんなで作って上げていくということ、一方的な恩恵だけではなくて、みんなで作って上げていくのですということがしっかり伝わるように、そしてそのように取り組んでいくことが大事ですということですね。

では、永井委員、それから佐藤静委員というふうに行きます。

#### ○永井幸夫委員

この会議に関係はありませんが、敬老乗車証の見直しということで地下鉄とバスを1割自己負担で年間上限12万円までというようにしたとき、社会福祉審議会の老人福祉専門分科会の会長として僕も関わっていたのです。知っていてほしいと思ったのは、やはり傳野委員と同じ考えです。

見直しをする前、中には年間の利用額が非常に多額になっている方もいて、1日何千円というバス代が無料になっている。市が補填していてそれは税金なのです。そこでいろいろ検討して1割ぐらいいは出してもらい、上限を12万にすることになりました。それ以上遣う人は自分で出してもいいのではないかと。「年寄りをいじめるのか」という声もあり、大変な思いもしましたが、その後、いろいろな高齢者の方に話を聞くと、やはり「1割ぐらいいは出さなくちゃね」というふうに変えてくれたのです。あまり優遇しすぎるのも良くないなと思いました。

○阿部一彦部会長

これまでの経過についての説明ありがとうございます。制度を持続的にということは、お互いにみんなでやっていくということの大事さですね。傳野委員、永井委員。では佐藤静委員、お願いします。

○佐藤静委員

同じ③「笑顔はなまる子どもプロジェクト」のところなのですが、全市民アンケートの結果で「仙台で育つ」の上位項目に「教育・学力」「いじめ・不登校対策」という学校の問題が出てきているのですが、この実施の方向性の中には学校の問題が出てきていないですね。これは考えていただけるとありがたいなと思っていました。

○阿部一彦部会長

大事な指摘でありますので、その辺についてはまた事務局から。次回ということになるでしょうか。

そのほか。岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

これまでの議論を踏まえたり、あとはこのアンケートの結果とかを見たりした考えなのですが、④「いきいきライフデザインプロジェクト」なのですが、やはりまちづくりというものが行政主導でやっていくだけではなくて、みんなでやっていく。市民側もそういう意識を持った方が良い時代であるということが結構ご意見としていろいろ出ているように思っています。

右側の実施の方向性のところで、「学都×地域デザイン」というところがあるのですが、例えば、ここに若者の考えをというふうに言うだけではなくて、一般の人も若者ももっとまちづくりに参画できるということを押していくみたいなことを入れるのはどうかと思いました。

というのが、こういうアンケートを見ると「こういう機会があるなんて知らなかった」「すごく楽しかった」「もっと参画したいと思った」というご意見がある一方で、投票率とかすごく低いですね。それは何かギャップがあると思っていて、それを明確に書くべきなのかどうなのかちょっと皆さんと議論したいと思うのですが、学びというところに、もっと市民みんなでつくっていくということを入れていくというのはどうかという意見です。

○阿部一彦部会長

とにかくみんなでやっていくのだから、それがしっかり伝わるようにということと、その実践をしっかりやってみましょうということが伝わるような記載が大事ですということですね。ありがとうございました。

そのほか、いかがでしょうか。遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

この中で何か所か出ているのですが、「愛着」という表現です。愛着を育むというのは微妙な言葉かと感じています。地域のことを考え、地域の素材でアクションを起こし、学び、いろいろな方に助けられ、応援され、見守られることなどで、愛着に向かうのでは。愛着に代わる良い言葉がないか考えています。

18 ページの 04「子ども×FUN」に「ストレスなく子育てを楽しめる」とありますが、「子育てを楽しめる」だけでいいのでは。ネガティブとポジティブ、両方のストレスがありますので。

あと、先ほど岩間さんがおっしゃっていただいた 20 ページのところですが。本当におっしゃっていただいている通りだなというふうに思うと同時に、01「学都×デザイン」の最後の行の「活かせる仕組みづくり」のところですけど、活かせるだけではなくて、例えば「担える仕組み」みたいなことが入ってもいいのかなと思いました。

○阿部一彦部会長

愛着という表現についてはもっと別の表現もあるのではないかということですよ。皆さん、いかがでしょうか。その辺のところ。

○阿部重樹委員

先ほど私が申し上げた点は、おそらく愛着という言葉自体は愛着でもいいかもしれないけど、理念に関わることだという。だから先ほどご指摘させていただいたところですが、理念とプロジェクトの目標を同列に論じるのには、違和感があるということです。

例えば 5 ページのまちづくりの理念のところですが、一番下の行に「まちづくりの理念として掲げ、仙台が仙台らしく輝ける」と出ていますよね。こういうのがたぶん、これを実感できれば愛着になるのだろうというふうに思うのです。

それから別に質問ではないのですが、④「いきいきライフデザインプロジェクト」、19 ページのところですけど、主語がはっきりしていないのですが、目標の 2 行目から 3 行目にかけて、「将来の希望を描ける環境」。こういう環境を実感できたら愛着なのだと思うのです。だから、そういう意味で多分に理念的という気がしていて、そういう主旨でたぶん子どものプロジェクトのところにも愛着という単語が出ていると思うのです。ただプロジェクトの目標に落とし込むのには違和感があるという気がしているということでお伝えしました。一緒に少しご検討いただければいいかなと思います。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。そのほか委員の皆さま、今議論しているところに関して、ご意見をいただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

永井委員、お願いします。

○永井幸夫委員

18 ページの 4 番目ですが、「子ども×FUN」と書いてあって、「子育て家庭に配慮した開発誘導」。開発誘導とは何のことでしょう。

○松田政策企画課長

ここは言葉が足りないところでした。「子育て家庭に配慮した開発誘導」というのは、実はほかのプロジェクトの、例えばプロジェクト6の都心再構築にもちょっと関わってくるのです。今、仙台の都心をいろいろ見直して古い建物を建て直すような民間の開発誘導をするというのがあるのですけれども、そういう中で例えば子育て世代もまちなかで楽しめるような、そういうスポットなり、イベントなり、そういったものもこうしていかなければならないというような話を6のプロジェクトの方でしており、それを意識したものでありました。

民間の開発誘導の中で、子育て世代にも配慮したような商業施設であるとか、遊び場であるとか、そういうものも一緒に組み込んでいただけないかという考えがありましたので、それをこちらのほうにも書いたものではあるのですけれども、たしかに今読むと、これは何だということがありますので、書くのであればもう少し丁寧に、一般の市民が見ても分かるように書いていきたいと思えます。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。今のところの議論もしながらですけれども、①、⑤、⑥です。ほかの部会が所管するテーマについても皆さんからご意見をいただいて進めていきたいと思えます。

阿部重樹委員、お願いします。

○阿部重樹委員

お答えをいただくことではないのですが、今日は冒頭で仙台商工会議所の資料「チャレンジシティ仙台」を配布されて、ちょっと見ただけですが、ここにも都心回遊というのが中心に出ておりました。それで今、⑥の都心再構築プロジェクトの24ページを開いて見ると、03で「都心×回遊」というのが出てきていますので、どこまでクロスオーバーというか、交錯をすることができるのかという可能性について事務局の方で少しご検討いただいて、次回の部会とかにお示しをいただけるのであればいいかなという。せっかくここに出てきていますから、提案というか要望というか、そう受け止めていただければと思えます。

○阿部一彦部会長

大事な提案ありがとうございます。委員の皆さま、ほかのことも含めていかがでしょうか。①、⑤、⑥ということになります。

遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行



関わるとすると、「①未来へつなぐ防災環境プロジェクト」と、「⑥せんだい都心再構築プロジェクト」になるかと思うのですが、私は「杜の都の環境をつくる審議会」の委員もさせていただいております、あちらの方でも「仙台市みどりの基本計画」を更新する時期にきています。

なので、もう少し市民を巻き込んで、今回はThe Greenest Cityというものも出ていますので。これまでの維持と継続だけではなくて、新たな価値をどういうふうに楽しくつくっていくのかみたいなことを、もっと市民と一緒につくるのか、もっと市民も勉強する機会とか、研究する機会をつくるみたいなことも、この①と⑥のところに関わってくるのかなというふうに思いました。

ですから、そのGreenestみたいなことを意図した時に、この実施の方向性のところに、新たなアクションも入れていただけるといいのではないかなと思います。

#### ○阿部一彦部会長

大事なお指摘ありがとうございました。

というようなことで、もう1つの部会の方で挙げた意見も含めて、次回の部会ではそれを反映した修正版が事務局からまた出てくると思います。

それで、実はまだ検討しなければいけないことがあります。確実に8時を過ぎそうですが、お願いいたします。

では、次でございます。ⅠからⅢまで一通りご意見をいただきました。構成は前回よりかなりシンプルになって分かりやすくなったと思います。ここで改めてそれぞれの章のつながりや、文章の流れといった点について、まだご意見のある方がいらっしゃれば伺いたいと思います。いかがでしょうか。

奥村委員、お願いします。

#### ○奥村誠委員

構成は前回からシンプルになって大変僕はいいと思うのですが、今度、重点プロジェクトのⅢになったところで、Ⅱの4つの都市個性とⅢのプロジェクトの関係を示すパートはどこへ行ったのだと。なくなってしまった感じがするのです。Ⅲ重点プロジェクトを読もうとした時に、前の4つの都市個性との関係性を示す対応表が前回がありましたよね。それがあってもいいのかなと思います。

#### ○阿部一彦部会長

そのことについて事務局、いかがですか。

#### ○松田政策企画課長

実は事務局でもどういう表現をしていこうかというところで、考えていたところございました。

今日の資料には落とし込んでおりませんが、都市の強みを掛け合わせてというところが大前提のものではあるので、この6つのプロジェクトがそれぞれどういった都市個性、強

みを生かして取り組むのかというところは、表がいいのか、アイコンがいいのか、表現についてはいろいろと考えていきたいと思いますが、いずれそれはお示しをしたいと考えておりました。

○阿部一彦部会長

よろしいでしょうか。奥村委員、ありがとうございます。

委員の皆さまいかがでしょうか。全体の構成ということで、またしっかりとご意見をいただきたいと思いますが。

岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

これは質問なのですが、この全体で表記揺れの話とか、この言葉は身近ではないのではないかとというようなご指摘がいろいろあったと思うのですが、冊子にするにあたり最終的にデザイナーとかイラストレーターを入れる予定というのはあるのでしょうか。

○阿部一彦部会長

質問です。お願いします。

○松田政策企画課長

いずれこれを冊子にしていくにあたって、デザイナーまで入るかどうかというところはありますが、私どもが手作業で全部つくるわけではなくて、しかるべき業者の方をお願いをして、見栄え等も助言をいただきながら、作り込んでいこうと思っております。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

遠藤智栄部会長代行、お願いします。

○遠藤智栄部会長代行

35 ページです。「総合計画の着実な推進」という項目があるのですが、ちょっと分量がまだこのぐらいしかないのですが、皆さんと議論しているこの次期総合計画を実行し、まさに皆さんで描いた方向性を実現していくためにはこの行政運営の方針もある意味、時代に合ったというか、そういった計画実施にあったような機動的なものにもっと変えていく必要があるのではないかなと思います。こういったところはもっとこれから追加していった方がよろしいのではないですか。今日はこの議論まではできないかなと思うのですが。

○阿部一彦部会長

I から III までのところ、全体の構成、よろしいでしょうか。基本的にはこの案で進めさせていただくということでご了承いただいたということで。次のまちづくりの理念そのも

のに関するご意見などは、両方の部会での議論を少しずつ擦り合わせながら、プロジェクトの内容を検討する必要があると思います。この点については事務局とも相談して改めて整理していきたいと思います。

次はⅣ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶをまとめて5分です。今、遠藤智栄部会長代行からⅥのところのご指摘ありました。これなどを含めてⅣ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶの4つをまとめての審議です。25ページから35ページでご意見をいただきます。

大きな変更点としては、Ⅵ「総合計画の着実な推進」の方に「行政運営の方針」ということで、前回の資料では前半の方に記載がありました持続可能な都市マネジメントや、大都市としてのまちづくりが入っております。

ここは現段階ではあまり審議するという事ではないのかもしれませんが、お気付きの点ということで、遠藤智栄部会長代行からご意見がございました。そのほか皆さまからございますか。

奥村委員、お願いします。

#### ○奥村誠委員

Ⅳ「基本的な施策の方向性」の意味です。Ⅲ「重点プロジェクト」との関係は、何かこれでいいのでしょうか。そもそも論に戻ってしまうのですが。

普通に考えれば「基本的な施策の方向性」という「これしたい」というものが先にあって、その後に「その中で特に力を入れるのはこれですよ」という、重点プロジェクトの方が後にあるはずです。ここのⅣ「基本的な施策の方向性」と書いてあるのはそういう意味ではなくて、どちらかという、重点プロジェクトではやらないけども「市としてはこういうことも考えていますよ」というものを並べておくつもりなのか。

それだったら「基本的な施策の方向性」という名前はおかしいので、だから何かどっちなのかなど。でもⅢ「重点プロジェクト」を先に持ってこないとおかしいと思うのですが、そうするとⅣの名前がおかしいのではないか。「基本的な施策の方向性」ではなくて、もうちょっと別のネーミングになるのではなからうかと思います。

#### ○阿部一彦部会長

大事なご指摘ありがとうございました。たしか重点プロジェクトに入らなかったものを網羅的にということもあって、この表現の仕方にしたのでは。事務局からお願いします。

#### ○松田政策企画課長

はい、そうでございます。重点プロジェクトにあるものも含め、またそれから漏れているものも含んでの総合計画でございますので、一通りのものは掲載しておくべきという考えから、こちらを掲載しております。どちらかという、奥村委員の後半の方の意見、基本的なというよりは、施策全般の体系というような形かと思っておりますので、名前についてはちょっと…。

#### ○奥村誠委員

「推進すべき施策の体系」みたいな感じですね。結局ね。

○松田政策企画課長

施策全般の体系ということになります。

○奥村誠委員

全般的にはそうだといいことですね。分かりました。

○阿部一彦部会長

その名称についてもまた次回、委員の皆さんと検討できればと思います。

佐藤静委員、お願いします。

○佐藤静委員

細かいところで大変恐縮です。31 ページ。学びのところ、いろいろまとめていただいてありがたいのですが、(4) のところです。「安心して学べる環境整備」というところで、「いじめ・不登校の未然防止対策」とありますが、未然防止という言葉は不登校に対しては不適切かなという気がします。この辺も考慮していただければと思います。

いじめの未然防止くらいだったらいいのですけど。

○阿部一彦部会長

大事なご指摘ありがとうございました。というようなことも含めて、このIV、V、VI、VIIは、後でまたしっかり検討することもあるのですけれどもという中で、今お気付きのことをご指摘いただきました。

佐藤和子委員、お願いします。

○佐藤和子委員

私も文言なのですけれども、29 ページの一番上の(2)。「障害のある児童や発達に不安を抱える児童」。「不安を抱える児童」という表現はあまりなかったのではないかと。「発達に特性がある児童」とか、今までそういう表現だったような感じがいたしますので、ご検討をお願いいたします。

○阿部一彦部会長

ありがとうございます。

中坪委員、お願いします。

○中坪千代委員

私も佐藤和子委員と同じところですね。25 ページにもあるのですね、「障害のある児童や発達に……」。ここは私も先ほどから気になっていた表現です。読み手にとっては実際その支援学級の保護者や、実際に通っている子どもたちからすると、この表現はどうかなと

思うところがありました。

○阿部一彦部会長

ⅣからⅦまでの間で、後から議論するとしても、今お気付きのところということでいくつか意見をいただきました。大事なご指摘ありがとうございます。

阿部重樹委員、お願いします。

○阿部重樹委員

私は 30 ページについて 2 点です。4 の「多様な主体が地域で関わり、支えあうまちづくり」の(1)地域の顔が見える関係づくりの事です。2 つ中点(・)で項目が書いてあります。これに関連して今日の資料「市民まちづくりフォーラム～みんなのせんだい未来づくり 2019～」の報告書別紙を先ほど事務局からご説明いただきましたが、例えば 8 ページの「地域コミュニティの強化」のところも自由記載で書かれていますということで、ちょっと眺めたところ、町内会を中心にして悩みとか、不安とか、課題とかが書かれているので、この何気なく書かれている 2 つの中点(・)だけでも、十分対応する言い方になっているという気がして、これは良かったと思います。

先ほどの重点プロジェクトでは、「町内会をはじめとして」とあっさりやってしまっていた。「はじめとして」という町内会が、かなりこちらの資料だと悩んでいるわけですから、「はじめとされては困る」というふうなところもあるかなと思ったのですが、こういうふうに書かれていて良かった。

それからもう 1 点。佐藤和子委員が先ほどいわゆるひきこもりとかに対する対処対応も必要でないかというお話が情報保障とともにあったのですが、それはやはり私もそういう思いを強く持っています。それは例の 8050 問題とか、それからこの頃相次いで就職氷河期世代への対応が政府レベルでも、地方自治体レベルでも出てきていますよね。

残念ながら、閉じこもり・ひきこもりというような方々への対処対応は出てきていないので、せっかくこれから 10 年の計画を考えて行くのであれば、私も入れておいてもいいかなという気がしております。

ご検討いただければということです。

○阿部一彦部会長

ⅣからⅦまでのところで、今ご指摘いただいたことを事務局で検討していただきながら、また、こちらでもその結果も含めて検討していくというふうに進めてまいりたいと思います。

ではそれでは時間をオーバーしてしまいましたが、ここまでとしたいと思います。

(3) その他

○阿部一彦部会長

最後に「その他」です。委員の皆さまから何かございますか。

私からは今の時点で 10 分遅れの進行となり申し訳ありませんでした。

傳野委員、お願いします。

○傳野貞雄委員

30 ページです。(1)の「町内会等地域活動団体支援、担い手確保」とあるのですが、町内会というのは税金を使っていなくて、全部町内会費でやっているということと、任意団体なのです。

今日、午前中市長さんと意見交換会をしたのですが、町内会をどのような形で市は見ているのかというふうなことで、「町内会の立場は何なのですか」と。それで避難所開設もこの間の大雨も全部町内会の方に、全部ではないのですが、校長先生と教頭先生のほかに、後は町内会が頼りにされているのですけれども、その担い手と言いましても、町内会は報酬ゼロなのです。

町内会ではいろいろな面でパソコンも使うのですけれども、全部自前なのです。そういう部分もふまえてこういうふうな書き方をなされるのであれば、どのような支援なのか。「支えあうまちづくり」に町内会も含めていただきたい。

○阿部一彦部会長

本当に大事なご指摘ありがとうございました。

私の進行については、ここで終わらせていただきます。

私たちの仙台、私たちが暮らしやすい仙台らしい仙台ということを皆さんとともに、そして多くの市民の方々と一緒につくっていくことの重要性について、今回委員の皆さまからご意見いただきました。これからの時代、いろいろなことが想定されるかもしれませんが、私たちの仙台は暮らしやすくなっていく。皆さんとともにそうなるといいなと思います。奥村会長、よろしく申し上げますということで、第2回の部会を終わります。

### 3 閉会

○阿部一彦部会長

最後に事務局から何か連絡がありましたらよろしくお願いします。

○松田政策企画課長

事務局から最後に1点ご連絡がございます。次回の審議会の日程でございます。お手元の座席表の裏面に、今後の日程について記載しておりますのでご覧ください。

次回の第3回部会、「まちと活力部会」は2月3日(月)ですが、「地域と暮らし部会」は翌日2月4日(火)の18時から開催したいと考えております。

場所は市役所南側の市民広場の近くでございます「仙台パークビル」の2階「TKPガーデンシティ仙台勾当台 ホール2」でございます。以前、委員同士のワーキングを行った場所でございます。いつもと違う民間ビルの会議室での開催となりますので、どうぞお間違えのないようお願いしたいと思います。

本日は長時間の審議、どうもありがとうございました。